

平成28年度7月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成28年7月4日（月）午前11時00分～11時30分

場所 市役所2階第3委員会室

出席 市政記者クラブ12社

会見内容

1. はじめに

- 先月の記者懇談会でもお知らせいたしました、平成28年度くしろ応援ファンド活用事業の募集を6月20日（月）から開始しております。
- くしろ応援ファンド活用事業に採択された、釧路の価値を高めることにつながる事業については、クラウドファンディングにより事業資金を調達する際のファンド組成費用が軽減されるとともに、事業そのもの及び完成した商品・サービスのPR等の支援を受けることができます。
- なお、7月21日（木）、22日（金）には、くしろ応援ファンド事業に興味のある方、活用してみたいという方を対象に「くしろ応援ファンド活用セミナー」を開催いたします。
- こちらにつきましては資料を配付しておりますので、よろしくお願いいたします。
- また、コンパクトなまちづくりを考える住民意見交換会を、7月14日（木）の大楽毛生活館をスタートに市内8カ所で実施いたします。
- 今年度末の公表に向けて、策定を進めております立地適正化計画の内容を含め、市の担当者からコンパクトなまちづくりについて説明させていただき、情報を市民と共有した上で、地域の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えております。
- 日程などにつきましては、資料として配付しておりますので、よろしくお願いいたします。

2. 話題提供(4項目)

1. くしろ木づなショーケースについて

- こちらに展示しております「くしろ木づなショーケース」についてのご紹介です。
市では、釧路森林資源活用円卓会議を立ち上げ、カラマツをはじめとする豊富な森林資源を有効活用するために、「くしろ木づなプロジェクト」を実施しており、今年3月には、これまでの取り組みをカタログ的にまとめた小冊子「くしろの木製品」を発行したところです。

- このたび、「くしろ木づなプロジェクト」の事業のひとつとして、地元で生産された木材や木製品を実際に見て触れることのできる展示ブース「くしろ木づなショーケース」を製作いたしました。

このショーケースは、実際に住宅などで使われるカラマツの柱や梁といった建材から、バイオマスとして活用されるチップ、木製遊具など、釧路の森林から生み出された製品を、一度に紹介できる展示ブースとなっております。

- 今後、各種イベントなどで展示し、皆さまに釧路の森林・木製品の魅力をお伝えしていきたいと考えております。

2. 平成29年度釧路市重要懸案事項に係る中央要請行動について

- 国の概算要求に向けて、国や道の平成29年度予算の確保に向けた中央要請行動を札幌及び東京で実施いたします。

- 釧路市単独の要望として、7月6日には、札幌におきまして北海道開発局、北海道経済産業局など、翌7日には北海道などに要請を行います。

また、7月21日には、東京におきまして、釧路地方総合開発促進期成会と共に、国会議員をはじめ、国土交通省、環境省、農林水産省など、翌22日には、主に観光立国ショーケースに関する取組について各省庁へ要請を行う予定です。

- 今回の中央要請行動では、釧路市として35項目の重要懸案事項について要望する予定であり、このうち新規要望4項目につきまして、ご説明を申し上げます。

- 1点目は、要望書23頁の「阿寒国立公園の世界水準の『ナショナルパーク』としてのブランド化」でございます。

こちらでは、国に対し、阿寒国立公園における外国人来訪者数の増加を図るため、一層の景観形成や世界に向けた情報発信、外国人受け入れ体制の強化を図るなど、世界水準のナショナルパークとしてのブランド化に向けた取組への支援を要望いたします。

- 2点目は、要望書27頁、「釧路市愛国浄水場更新事業の整備推進」でございます。

こちらでは、国に対し、愛国浄水場の高度浄水処理施設建設に係る平成29年度から32年度までの各事業年度における財政支援について要望いたします。

- 3点目は、要望書45頁、「観光立国ショーケースに関する取組への支援」です。

こちらでは、国、道に対し、観光立国のショーケース化に向け、本市が取り組むべき事業として、プロジェクトチーム会議において作成したロードマップに基づき、ハード面、ソフト面双方からの支援を要望いたします。

なお、本件につきましては、総合的な要望書に事業の全体を掲載するほか、省庁ごとに要望事項を整理した要望書を別冊で作成し、関係各所への要望を行います。

3. 釧路市地域公共交通網形成計画の策定について

- 地域公共交通網形成計画は、改正地域公共交通活性化再生法により、地方公共団体が中心となって、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりと連携し、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を図り、「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするマスタープランとしての役割を果たす交通計画です。このたび、釧路市も「釧路市地域公共交通網形成計画」の策定に取り組むことといたしました。
- 計画の策定にあたっては、都市機能が集積している各拠点を公共交通で接続した効率的なまちづくりを見据える必要があることから、都市計画マスタープラン、釧路都市圏の都市交通マスタープランや、現在策定中である、コンパクトシティを実現する計画であります立地適正化計画とも連動して取り組んでまいります。
- その計画の策定及び実施に関して協議を行うため、「釧路市地域公共交通活性化協議会」を平成28年3月22日に設置したところです。
構成メンバーは、名塚副市長を会長に、公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、地域公共交通の利用者、学識経験者、釧路市等による30名となっております。
- 今後は、業務委託により7月から9月にかけて、路線バスの利用実態調査、公共交通へのニーズ把握調査、市内バス路線に関する学生ワーキングを実施し、10月頃にこれらの取りまとめを行い、その結果を踏まえて、適宜、協議会及び専門部会を開催し、計画の内容検討を進め、平成29年3月末までに、「釧路市地域公共交通網形成計画」の素案を策定する予定としております。
- なお、専門部会につきましては、去る6月29日に初会合を行い、ニーズ把握調査をはじめ各種調査の内容検討を行う等、活発なご議論をいただいているところであります。
- また、7月12日（火）から14日（木）にかけて、路線バスの利用実態調査を行います。この調査は、調査員が実際にバスに乗りまして、乗客の方が乗り込む際に、その都度、調査票を配付し、降りる際に回収する方式で行います。
調査票はビンゴゲームのカードの形をして、回答しやすいよう工夫されております。
- 公共交通は、これからも安心してこの地域で住み続けていくための移動手段として、なくてはならないものでありますので、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

4. 釧路空港への季節便（名古屋・大阪）の就航について

- 釧路と大阪を結ぶ国内路線として旅客需要の高い全日空の伊丹線が、本年も7月15日（金）から8月31日（水）まで、夏季限定で運航されることとなりました。
- また、釧路と名古屋を結ぶ、日本航空の中部線につきましても、一昨年より引き続き、本年も8月2日（火）から30日（火）までの期間で運航されることとなりました。

- この季節便の運航に先立ちまして、5月に名古屋地域、6月に大阪地域において、観光プロモーションを実施し、現地の皆様に釧路の「観光・体験・食」や「涼しさ」をPRしてまいりました。
- また、季節便運航に併せまして、今回初めて釧路空港利用整備促進期成会の協賛を受けた旅行商品が、旅行会社により造られております。
この旅行商品では、名古屋では本年G8サミットが開催された賢島や伊勢神宮の特別参拝など、大阪では姫路城や西本願寺などの著名な観光地を巡る内容となっており、市民並びに関係団体の皆さまの積極的なご利用を期待しているところでございます。
- なお、各季節便の初便の釧路空港到着に合わせて、歓迎行事の実施を予定しており、記念品として釧路の海産物等をパックにしたものを乗客の皆さまにお配りすることとしております。
- こうした取り組みを通じ、路線存続に向けてより一層の利用促進を図るとともに、地域経済の活性化に繋がるよう努めていきたいと考えているところです。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 中央要望について、観光立国ショーケース関係の要望はいくつになりますか。

(市長)

- ・ 観光立国については別冊を作っており、まだ完成していないところです。観光立国については、現在、6月に提出したロードマップの打ち合わせを行っているところで、関係省庁と打ち合わせ後、省庁連絡会議につながっていき、事業がまとまっていくことになっておりますので、この要望書の項目をさらに絞り、各省庁単位で仕分けて進めていこうという考えです。

(質問)

- ・ 23ページの「阿寒国立公園の『ナショナルパーク』としてのブランド化」は、観光立国ショーケースとは別になりますか。

(市長)

- ・ この項目は「国立公園満喫プロジェクト」を念頭に進めているものですが、観光立国ショーケースの要望とは重なる内容もあります。

(質問)

- ・ アベニュークシロが8月末に閉館しますが、駅周辺整備についての影響はどのようにお考えですか。

(市長)

- ・ 釧路駅周辺整備については、防災、市民の命を救うという観点から、釧路市ではまちづくりをどうしていくかということにつなげて作業を進めているところです。アベニュークシロについては、建物に問題があるために閉館することから、今後どうなるのかについては、情報を集めながら注視しているところです。

非常にいい場所であり、建物が使えなくなるということで、今後の動きを踏まえて対応することとしております。

(質問)

- ・ 北大通3丁目、4丁目のように、壊すときの補助金を出すことについては検討していますか。

(市長)

- ・ 北大通では、新たに建物を建てる時の優良建築物の仕組みを活用しており、アベニュークシロのケースとは違ってしています。アベニュークシロについては、建物利用の希望はある中、耐震などにあまり対応されていないために起こったことと思っています。

(質問)

- ・ 他の企業が取得する話がありますか。

(市長)

- ・ 民間会社の所有であり、そのような情報は聞いておりませんが、場所的には、寿の道営住宅など居住人口の多いところであり、動きが出てくると思いますので、今後、的確に対応していきたいと思っております。

(質問)

- ・ 先日、消防職員が飲酒運転で検挙されましたけれども、発表のあり方について、発表は6月30日で検挙されたのは5月と、1カ月も開いており、処分が決まるまで公表は控えるというのが市のスタンスだと思うのですが、今後の市の発表のあり方として、今回1カ月も間があったことは妥当だったのか、市長はどのようにお考えですか。

(市長)

- ・ 事故や不祥事については、処分が確定してからの発表を基本としてきました。ただ、今回の飲酒運転ということについては、どのように向きあっていくかを問われていると認識しています。

飲酒運転をなくすため、北海道や砂川市でも条例が制定され、飲酒運転を根絶するためにどのように対応していくのかということが問われていると思っております。

今後の発表のあり方については、飲酒運転や交通違反等全部が一緒ということではなく、飲酒運転の取り扱いについては、発表のあり方も他の件とは別になってくるかと思っています。

まず、市としては飲酒運転を撲滅することが重要であり、飲酒運転の注意喚起について、今までは庁内LANに載せていたものを、各課の職員にしっかり伝えていく、というやり方に変えています。

(質問)

- ・ 1カ月も経って公表されたというのは、遅いのではないかと感じているのですが、今回のケースは妥当だったとお考えですか。

(市長)

- ・ 今回の発表は、これまでの慣例に基づいて行ったというのが実態です。

(質問)

- ・ そこを今後見直すお考えはあるかということですが。

(市長)

- ・ 道もそうですが、市も今後見直す考えであり、また、先ほど言ったとおり、今回は職員に対しての庁達のやり方を変えたところです。

(職員監)

- ・ 通常は、職員全員が見られる庁内LANに庁達を掲載するだけですが、今回は各所属長に配付し、各課において最も効果的と思われる方法で全職員に通達するようにしたというのが、今までと違うやり方です。

(市長)

- ・ 飲酒運転については、今後、他の案件とは違った流れになっていくと考えております。全部の案件ということにはなりません、飲酒運転については公表していくということで検討しております。

(質問)

- ・ 飲酒運転に限らず、不祥事については速やかに、事実があれば確認が取れ次第、公表すべきではないかと思えます。

(市長)

- ・ 内容によりケースバイケースだと思っています。今後、公表のあり方を検討するところであり、市でも道と同様の内容で進めていくことになると思っています。